住宅省エネ
2025キャンペーン

先進的窓リノベ2025事業

先進的窓リノベ
2025事業

先進的窓リノベ2025事業は、断熱窓への改修を促進し既存住宅の省エネ化を促すことで、エネルギー費用負担の軽減、健康で快適なくらしの実現及び家庭からのCO2排出削減に貢献するとともに、断熱窓の生産効率向上による関連産業の競争力強化と成長を実現させることを目的とする事業です。

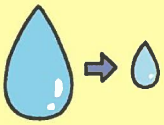
本事業の目的

住宅の窓の断熱性能を高めた省エネルギー性能の高い住宅を普及させることで、エネルギー価格高騰への対応や、家庭からのCO_2排出量削減への貢献を目的とします。

エネルギー価格高騰への対応

CO_2排出量削減への貢献

熱を伝えにくい



結露を減らす

住宅を
長持ちさせる

「ヒートショック」
等のリスクを低減

健康面への
メリットも期待

住宅の断熱化による健康への好影響として、健康診断結果の成績向上、睡眠の質向上、子供の喘息防止、入浴事故（ヒートショック等）リスクの低減が期待できます。

<参考>
省エネ住宅で節約できる年間の光熱費、
住宅の断熱化による健康への好影響

省エネで健康・快適な住まいづくりを！

開口部の重要性

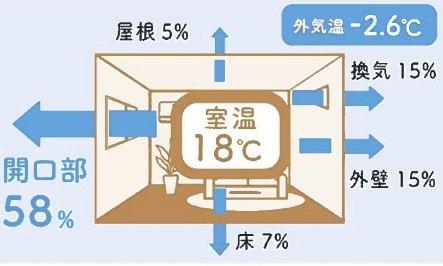
住宅の断熱性能を高めるためには、冬は家の中の暖かい空気や熱を外に逃がさない、夏は外の熱い空気や熱を家の中に入れないことが有効です。

特に、窓等の開口部における熱の流失入は住宅全体の6～7割に及び、大きな割合を占めるとされています。

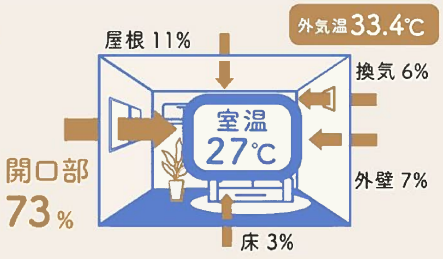
これは日本の住宅の窓の約7割が、熱の流失入量が大きい「アルミサッシ+単層（1枚）ガラス」の組み合わせであることが原因とされています。

住宅の窓を高断熱の窓に改修することで、高い省エネ効果が期待できます。

冬の暖房時の熱が
開口部から
流失する割合
58%



夏の冷房時（昼）に
開口部から
熱が入る割合
73%



参照：一般社団法人日本建材・住宅設備産業協会 / 平成11年省エネ基準レベルの断熱性能の住宅での試算例

改修の効果

あなたの窓の改修前の窓の熱貫流率は

4.0 (W/m²・K) ですが

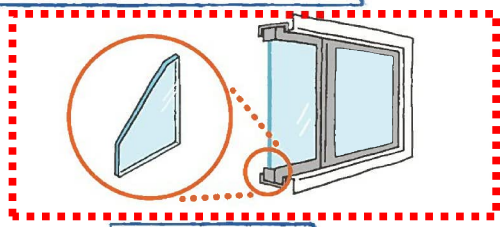
改修後の窓の熱貫流率は

1.9 (W/m²・K)

まで向上します!!

※ 熱貫流率とは、室内側と室外側の温度差を１℃とした時、窓ガラス１m²に対して、１秒間に通過する熱量のことをいいます。この熱貫流率の値が低いほど高い断熱性能を示します。

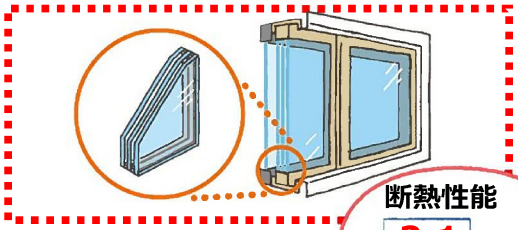
●改修前の窓（アルミ＋単板）



熱貫流率 **4.0** (W/m²・K)

交換

●改修後の窓（樹脂等＋複層）



断熱性能 2.1 倍 に向上

断熱性能UP！

熱貫流率 **1.9** (W/m²・K)

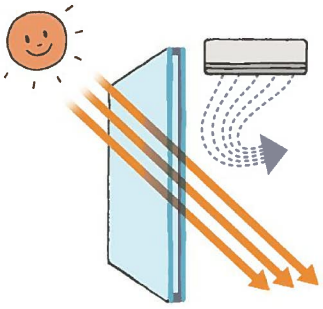
Low-E複層ガラスの場合の使い方

Low-E複層ガラスは二つのタイプを条件に合わせて使い分けることで、更に大きな省エネ効果を発揮できます。

※ Low-E複層ガラスとは、高断熱の複層ガラスにLow-E金属膜をコーティングすることで、より断熱性能を高めたガラスのことです。

リビング の窓には

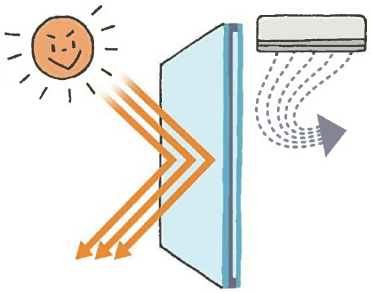
日射取得型



日差しをほどよく取り入れる「**日射取得型**」は、冬の低い位置の太陽から日差しを取り入れて室内を温めることができます。
太陽の高度が高くなる夏に日差しの量が多すぎる場合には、軒やひさしをつけることで、太陽の直射日光を防ぐこともできます。

寝室 の窓には

日射遮蔽型



高度の低い西日は軒やひさしでは遮りにくいので、夏の強い日差しをカットする「**日射遮蔽型**」のガラスが適しています。
窓の外側で日射を遮るすだれやシェードなどを併用するとより遮熱効果がアップします。

その他の省エネ

窓の高断熱化で省エネ効果を高めるとともに、普段の生活の中で、エアコンの使い方の見直しなどを行うと更に省エネ効果が高まります。

室内の冷やしすぎに注意し、無理のない範囲で室内温度を上げましょう。

重ね着するなどして、無理のない範囲で室内温度を下げましょう。

目詰まりしたフィルターを清掃しましょう。

日中は“すだれ”や“よしず”などで窓からの日差しを和らげましょう。

窓には厚手のカーテンを掛けましょう。

先進的窓リノベ2025事業専用サイト
https://window-renovation2025.env.go.jp/

有限会社　西建設
鹿児島市紫原六丁目34番10号
TEL　099-255-5315　FAX　099-257-3821

※本チラシは事務局から提供された資料に基づいて窓リノベ事業者が作成したものです。